



修学旅行 広島へ！6年生

10月4日（金）・5日（土）の2日間、
6年生が、広島への

修学旅行に全員参加で行ってきました。

天候にも恵まれ、校外学習の集大成として、貴重な体験と気づきを得ることができました。さて、修学旅行で目的としていたことは、



- ① 戦争当時の様子を学習し、戦争や平和について学びを深める。
- ② 集団生活を通して、自分たちで考えて行動するとともに、友だち同士で助け合える仲間づくりをする。

の2つでしたが、子どもたちの目的への意識は高く、私たちがめざす姿として達成できていました。

まず、一つ目の目的については、昼食をはさみながら、**折り鶴セレモニー・慰霊碑めぐり・平和記念資料館見学・被爆体験者による講話**と、午前11時から午後4時までの5時間、集合・整列、個々の学習に向けた心構えや準備への切り替えも素早く、相手意識・目的意識をもって学習を進めていました。特に、人との出会いを大切に慰霊碑めぐりのボランティアガイドさんや被爆体験者である笠岡さんのお話を聴く姿勢も素晴らしく、目と耳と心を働かせ、問いや気づきをもって聴くことができました。

平和とは「**愛の心**」という笠岡さんからのメッセージは、子どもたちの心に響いたようで、質問や感想・意見を述べる時間になると、子どもたちは次から次へと手を挙げ、最後まで途切れることはありませんでした。自分の言葉で気づきや考えを述べる子どもの姿は、とても素敵でした。

下級生の願いも胸に、思いやる心を持ち続けることを誓い合った折り鶴セレモニーでは、外国人観光客の関心の的にもなりました。**平和集会**をゴールに、身近な平和を築くための取組みは続き、学校全体に「愛の心」を広げていっていただければと願っております。

次に、二つ目の目的については、安易に先生方を頼らず、答えはすべて「修学旅行のしおり」に書かれてあるとばかりに、自分たちで確認し仲良く声を掛け合いながら、メリハリのある集団行動を心がけていました。

また、友だちを一人にさせるようなこともなく、一人一人に役割がある生活班・学習班での活動そのものが平和でした。

修学旅行を通して何を大切にするのか、どんな力をつけるのか、その目的を明確にして、全員が同じ方向に気持ちを揃え、過ごすことができた2日間でした。

自らの足で広島を歩き、わかったこと、気づいたことは本物です。この気づきを日々の学校生活に活かし、最後まで友だちを大切に、違いを認め、助け合い、教え合える関係を保ち続けて欲しいと願っています。そのためにも、今、自分にできることとして友だちや下級生への「愛の心」、つまり「思いやり」を大切に、身近な平和を創り上げてほしいと願っています。

一人一人の笑顔が卒業というゴールまで光り輝けるよう、最後まで最上級生としての誇りを胸に、日々の頑張りを見つけ、ほめ続けていきたいと考えています。



平和セレモニー



慰霊碑めぐり



平和記念資料館見学



被爆体験者による講話

児童集会講話



10月8日(火)の児童集会では、ラグビーワールドカップ2019で日本国中、大いに盛り上がっているということを受けてラグビーにおいて有名な言葉、「One for all, All for one」の意味について、お話ししました。

この言葉は、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という意味だと思いついていたのですが、実は「一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために」という意味が本当だそうです。

ラグビーは、作戦通りに全員がプレーすれば、必ずトライが取れるかと言えば、なかなかそう簡単にはいきません。相手の守り方が上手い、味方がミスをするなど、ラグビーボールの弾み方のように攻撃の行方は、読み取れません。「ミスはいつでも起こる。予想しなかった展開になっても、仲間が全力でフォローする。ミスは起きるものとして決して責めない。逆に、フォローしなかったことを責める。」という考え方でトライという目的につながるのが、ラグビーの醍醐味ではないのかなと思います。

この「一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために」という言葉は、住北っ子の日常にも息づく言葉ではないかと思ひ、その身近な例として、6年生の修学旅行での一コマを取り上げました。

それは、被爆体験者である笠岡さんの講話を聴いた時の場面で、笠岡さんは、6年生みんなのために、6年生のみんなは、笠岡さんへの感謝の気持ちとともに「平和とは何か」について考えるために、自分の気づきを自分なりの言葉で最後まで出し合いました。その姿に、このラグビーでの名言が重なり合ったという訳です。6年生には、平和とは「愛の心」という笠岡さんの言葉を忘れることなく、最後まで自分の役割に責任を持ち、友だちのミスは責めず、全員でフォローし合う、思いやりのある学年であり続けてほしいなと願っています。



自らの思いをつなぐ6年生

後期児童会

9月30日(月)の委員会活動では、時間を区切って前期の反省と後期の立ち上げを同時に行いました。そして、10月8日(火)の児童集会にて、後期児童会の役員・代表委員の認証式を行いました。

後期児童会の目標は、「あたり前を大切に明るい学校にしよう」です。会長の藤田柚加さんは、「学校を明るく、あたり前を一人ひとりが意識できるようにしていきたいです。」と会長としての意気込みを児童会新聞に綴っていました。

藤田さんをはじめ、児童会役員・代表委員の児童一人ひとりの活躍を見守りつつ、正当なリーダーが育つ学校として児童会の運営にも力を入れていきます。「住北っ子の 住北っ子による 住北っ子のための 学校づくり」をめざし、子どもたちが主体となって、児童会と各委員会の活動が活性化するようにお手伝いできればと考えております。

会長	6年1組	藤田 柚加	代表委員	5年1組	青野 希咲
副会長	5年2組	大森 凜		5年1組	岡田 愛未
書記	6年2組	大西 大空		5年2組	泉 直太郎
	5年1組	児玉 未結		5年2組	深川 琉楓
	4年1組	松本 咲和		4年1組	河野 友香
代表委員	6年1組	竹村 人生		4年1組	正木 二胡
	6年1組	新山 莉乃亜		4年2組	梶本 風
	6年2組	大岡 美帆		4年2組	中山 結理
	6年2組	西江 紗彩		4年2組	宮下 莉緒

児童会とともに保健・体育・図書・掲示・給食・放送・飼育・整備園芸の8委員会が、新体制で後期の活動をスタートさせています。